

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

西ブロックとなり組福祉員・愛の訪問協力員合同研修会（鳥取市社会福祉協議会）

テーマ： ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ
～考えてみましょう、話し合ってみましょう～

日時： 平成30年9月28日（金） 13：30～15：30

場所： 鹿野町老人福祉センター

参加者： 34名

【内容】 DVD「我が家に帰りたい」、パンフレット「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」、終活支援ノート「わたしの心づもり」を使っての地域包括ケアシステム及びACPの啓発。

（概要）

地域包括ケアシステムの概要、介護保険制度や自助・互助について、DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい（第一幕）」を参考に、参加者のグループワークや講師の解説で学習しました。

第二幕では、将来、自分の考えを伝えられなくなった時に「あなたならどのようにして欲しいですか？」、「ご家族にどのようにしてあげたいですか？」の2点について話し合い、パンフレット（さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり）、終活支援ノート（わたしの心づもり）により、講師よりACPの説明を行ないました。



【グループワークの主な意見紹介】

■グループワーク（第一幕）

○裕次郎さんの希望する在宅生活を送るには、どのようにしたら良いでしょうか？

- ・本人は前向き。この気持ちを活かし、自宅で様子を見るのが良い。
- ・手すりなど環境を整える。段差は、リハビリになるので、そのままでもよいかも？
- ・病状を共有し、予後予測しながら、どうすれば本人の意向にそえるか考える。
- ・カメラ、グラウンドゴルフ仲間の支援、近隣住民、社協などの協力が重要。
- ・「家から出ること」は必要。デイサービス、サロンの利用を検討する。
- ・短期入所（介護保険）を利用しながら、妻の負担が大きいなら、施設入所も考える。

■グループワーク（第二幕）

○将来、事故や病気などで身の回りの事（食べることも含め）ができなくなり、自分の考

- ・苦しまないようにしてほしい。
- ・胃ろうや延命はして欲しくない。点滴くらいはしてほしい。
- ・終末期ケア病院に入院したい。
- ・早い時期に話し合い、どうして欲しいか書いておきたい。
- ・「死」を考えたことがない。漠然としている。

○大切なご家族がこのようになった場合、どのようにしてあげたいですか？

- ・夫は「家にいたい」と言っている。本人の意志がわかれば従う。
- ・できるだけ在宅でみたい。やむを得ない場合は、施設入所。
- ・話す機会がない。まずは、言いやすい雰囲気づくり。
- ・本人が苦しまないようにしたい。点滴くらいはお願いしたい。
- ・いざ、となるとパニックになる。どうするかわからない。

【事務局の感想】

自助・互助の行動の中心ともなる「となり組福祉員・愛の訪問協力員」の皆さんの集まりで、熱心に話を聞いていただき、またDVDの素人役者の演技にも反応いただき、気持ちよく進めさせていただきました。

研修最初、お互いを紹介する時に少しとまどわれてしまう場面を作ってしまったことを事務局として深く反省します。そんな中でも話し合いでは、今までの経験を踏まえこれからの生き方について考え発表していただきました。

また、あちこちで「延命治療」という言葉が上がっていました。一人の住民として今後の療養について自分・家族それぞれについて考えていただける会になったのではないかと思います。

（講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室 秋田和秀・廣山恵）